

第7章

比較

英訳する際に、〈比較に関する構文〉はかなりよく使う。大学入試などの英訳問題でも、〈比較構文〉は全体の3分の1か4分の1を占めると言っても過言ではあるまい。もちろん、原級・比較級・最上級という言葉は英語学習の初期のうちからなじんでおり、読むだけならこれらは難なく解釈できよう。ところが、英訳となると、〈比較〉の構文は途端に難題になるようだ。

例えば、**He is as tall as his father.** ぐらいの英文なら書ける人が多いだろうが、**He has as many books as I do.** になると早くも間違える人が続出する。さらに、次のような文になるともうお手上げと言う人がほとんどだ。

Children are not as likely to play outside as they used to.

「子供たちは昔ほど外で遊びそうもない」

In no other country in the world is the average person as dependent on cars as (he is) in the U.S.

「アメリカほど一般国民が自動車に依存している国民は世界中どこにもない」

また、〈the + 比較級~, the + 比較級...〉の構文ぐらいは書けると思っている、思わぬ落とし穴に引っかかる場合もある。

とは言え、日本人の苦手とする〈比較〉に関する構文はだいたい決まっている。**fewer**や**less**が絡む場合、**as**と**as**の間が1語ではない場合、**as ... as in** ~となる場合などである。そして、今まで正しいと思っていた文が実は誤文だったということもある。例えば、次の文はどこが間違いかわかるだろうか。

Bill doesn't make as many mistakes as you. (×)

He is the tallest. (×)

The more you answer questions, the more you become interested in mathematics. (×)

この章では、そうした英訳でひっかかりやすい〈比較構文〉について触れながら、英語の〈比較構文〉の奥行きを深さまでを味わいたいと思う。

● 文法運用力チェック ●

- 1. 「少ない」から **fewer** がひらめくか? ⇨ §96
- 2. 原級の **as ~ as** の間に名詞を入れてもよいと思っていないか ⇨ §96
- 3. 比較構文は対象となる語の意味と品詞をそろえなければならないことを知っているか? ⇨ §97
- 4. 比較級の強調語はすべて **much** でよいと思っていないか? ⇨ §98
- 5. 最上級には全体集合を明示しなければならないことを意識しているか? ⇨ §99
- 6. 最上級には必ず **the** が付くと思っていないか ⇨ §99
- 7. 「~ほど...なものはない」を機械的に **Nothing is + 比較級 + than ~** と書いていないか? ⇨ §100
- 8. 原級の **as** 以下や比較級の **than** 以下が省略される場合があることを知っているか? ⇨ §101
- 9. 「X年ぶり」という表現を英語で書けるか? ⇨ §102
- 10. 「増える」という表現を英語で書けるか? ⇨ §103
- 11. 「減る」という表現を英語で書けるか? ⇨ §104
- 12. **the + 比較級~, the + 比較級...** の構文を作文で正確に使えるか? ⇨ §105